

# 小学校 社会科

## 1. 社会科における学習評価の基本的な考え方

社会科においては、学習指導要領に示された「内容のまとまり」は、複数の内容が含まれており、その内容ごとに単元を構成するものがほとんどです。そのため、「内容のまとまりごとの評価規準」をそのまま活用するのではなく、単元ごとに単元構成や学習過程に沿った具体的な評価規準を作成する必要があります。

社会科の「知識・技能」は、「～を調べ、～まとめ、～理解している」として知識と技能を関連付けて評価規準を作成します。「思考・判断・表現」は、「～に着目して、問いを見いだし・・・」という追究場面と「～と比較・関連付け、選択・判断したりして表現する・・・」という解決場面における評価について評価規準を作成します。「主体的に学習に取り組む態度」は、「主体的に問題解決しようとする態度」「よりよい社会を考え学習したことを社会に生かそうとする態度」の2つの評価規準を作成します。

## 2. 小学校社会科の学習評価の事例

小学校社会科の「内容のまとまり」は、例えば〔第4学年〕では、(1)都道府県の様子、(2)人々の健康や生活環境を支える事業、(3)自然災害から人々を守る活動、(4)県内の伝統や文化、先人の働き、(5)県内の特色ある地域の様子に分けられます。

内容のまとまりを踏まえた学習評価の事例を、第4学年(2)人々の健康や生活環境を支える事業の「廃棄物を処理する事業」で説明します。

### 例 第4学年「廃棄物を処理する事業」

学習指導要領の内容を基に作成。「主体的に学習に取り組む態度」については、学年目標を基に作成。



#### (1) 単元の目標の設定

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の利用のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

#### (2) 単元の評価規準の設定

学習指導要領の内容は、基本的に下記のような構成になっています。

- (1) **A**について、学習問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識や技能を身に付けること
    - (ア) **B**を理解すること
    - (イ) **C**などで調べて、**D**などにまとめること
  - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること
    - (ア) **E**などに着目して、**F**を捉え、**G**を考え、表現すること

学習指導要領を基に以下のような評価規準を作成することができます。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① <b>E</b> 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて、 <b>C</b> 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、 <b>F</b> 廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。	① <b>E</b> 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、 <b>F</b> 廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。	① <b>A</b> 廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを <b>D</b> 白地図や図表、文などにまとめ、 <b>B</b> 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	② 廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて <b>G</b> 廃棄物の処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	② 学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしている。

②は、単元によっては評価しない。内容の取扱いに、「発展を多角的に考える」「選択・判断する」と示されている単元では、積極的に評価する。

\_\_\_は、学習指導要領の内容、\_\_\_は、内容の取扱いや解説の記載事項を基に作成しています。

### (3) 単元の指導と評価の計画 (10 時間)

記は、評価したことを記録に残す場面として設定。それ以外は、指導に生かす評価を行う場面。

過程	ねらい [第〇時]	主な学習活動・内容	評価方法と評価規準
つかむ	学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようにする。 [第 2 時]	○学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。 ・学習問題の解決に向けた予想 ・学習計画の立案 清掃工場の見学 リサイクルセンター調べ	発言内容、ノートの記述内容や学習計画表などから、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態-①】
調べる	資料を活用し、リサイクルセンターが燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を調べることができるようにする。 [第 5 時]	○リサイクルセンターが燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を、各種資料を活用して調べる。 ・燃えないごみ、資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組み ・リサイクルセンターの仕事の工夫や苦労	記ノートや見学カードなどへの記述内容、学習計画表への記録などから、「必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。【知-①】
<p><b>「知識・技能」の評価について</b> 「調べる」過程では、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて、見学・調査したり各種資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を具体的に理解しているかを評価する。 <b>実際の評価 (例)</b> 児童 H は、資料から燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用している仕組みについて読みとって、ワークシートに、「クレーンで運ぶ」「種類ごとに分別」など、具体的に記述していた。以上のことから「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。</p>			
	見学・調査したり資料で調べたりしたことをまとめ、話し合い、学習を見直すことができるようにする。 [第 6 時]	○これまで調べてきたことをまとめ、さらに調べるべきことについて話し合う。 【まとめること】 ・ごみ処理の仕組みや経路 ・ごみ処理に関わる人々の働き 【さらに調べること】 ・灰の処理に関する問題	記ノートの記述内容や学習計画表などから「これまでの学習を振り返り、さらに調べることを見だし、見通しをもって追究しようとしているか」を評価する。【態-①】
<p><b>「思考・判断・表現」の評価について</b> 社会への関わり方を選択・判断する場で、ノートの記述内容などから、学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちができると考えたり、選択・判断したりして表現しているかを評価する。</p>			
いかす	様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて考え、ごみを減らすために自分たちが協力できることは何か考え、表現することができるようにする。 [第 10 時]	○様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて話し合い、ごみを減らすために自分たちにできることは何か考え、発表し合う。  ○ごみを減らすために自分たちにできることについてノートに自分なりの考えをまとめる。 ・ごみを減らす呼びかけおよびその理由 ・リサイクル法 ・世界のごみ処理の様子 ・ごみを減らすために自分たちに協力できること	記ノートの記述内容や発言内容などから、「学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【思-②】  記ノートの記述内容から、「単元の学習を振り返り、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態-②】
<p><b>「主体的に学習に取り組む態度」の評価について</b> ・単元前半では、【態-①】として、予想や学習計画を立て、見通しをもとうとしていたかを評価する。単元後半で「学習を振り返り見直したり」できるよう、見通しをもていない児童には指導する。〔第 2 時〕 ・単元途中では、【態-①】として、これまでの学習を振り返り、まだ解決できていないことについて、解決の見通しをもとうとしているかを評価する。〔第 6 時〕 ・単元後半では、【態-②】として、学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしているかを評価する。〔第 10 時〕</p>			